

国際教育研究フロンティアD 2009（共同集中講義）

1. 北京師範大学との学術交流協定による集中講義

本研究科は北京師範大学教育学院との学術交流協定にもとづいて、毎年交互に院生を対象とした講師派遣をおこなってきた。2009年度は7月21日・22日・23日の三日間の日程で、本研究科「国際教育研究フロンティア」の一環として、教育学院の林杰副教授が来学された。本研究科（日本）側での開講は隔年で、2007年の劉慧珍副教授に続いて、二回目となる。北京師範大学教育学院は現在、大幅な組織改編のただ中にあり、2009年には他の学院も含めより大規模な「教育学部」が設立された。

そうした中で今回の集中講義では、「中国における大学教員のアカデミック・プロフェッション」をテーマに、主として中国の高等教育に焦点をあて、大学教員の職業的地位や能力について最新のデータをもとに研究交流がおこなわれた。本研究科からは南部広孝准教授が共同で講義を担当し、午前・午後を通じて留学生を含む大学院生たちとの間で、三日間にわたり活発な議論がおこなわれた。林副教授は新進気鋭の大学教育の研究者であり、大学院生などに笑顔で気さくに話しかけられ、豊富な資料を用いて英語も交えて講義がおこなわれた。



▶林先生講義資料より

2. 林杰先生

「中国におけるアカデミック・プロフェッション」

林副教授は現在急速に規模を拡大する中国の高等教育、とりわけ大学教員の地位・能力について実証的な研究を行っている。講義ではまず、「中国における大学教員のアカデミック・プロフェッションの状況」が説明され、高等教育機関の規模拡張の一方で、質の問題や社会的アカウンタビリティの必要性に迫られていることが指摘された。

続いて「中国における大学教員の人事管理」では大学教員の選考・昇進の現状と流動性の課題が示され、「中国における大学教員の専門的活動と評価」では、研究活動に比して教育活動は評価が難しく、軽視されがちであると評価された。

最後に「中国における大学教員の権利と資質向上」では、学術委員会など大学の「学術権力」の自由・自治の問題や、教員の倫理・規範と資質向上に向けた課題が論じられた。



▶林杰先生

3. 南部先生「中国の高等教育とその改革動向」・懇談会

南部准教授からは、中国の高等教育の学校教育における位置づけや量的状況が概括され、「高等教育独学試験制度」や民営高等教育機関などについてわかりやすく解説がなされた。「独学試験制度」は一定の試験に合格すれば誰もが高等教育修了の資格を取得できる制度で、勤労者向けの成人教育機関と合わせて、中国独自の高等教育制度を構成している。

また近年の大学改革の動向について、学校設置主体の多様化や量的拡大、さらに大学自主権の拡大や外部評価などといった観点から分析された。高等教育においていわゆる「民営教育」が活発に展開される一方で、授業料の徴収も実施されるようになり、国家的資金配分とともに大学経営も大きな転換点を迎えつつあることが示された。



▶林先生講義資料より

集中講義と併せて、林・南部両先生とともに、本研究科の矢野研究科長・辻本教授・大塚教授・金子准教授もご出席いただいて懇談会が開かれ、今後の一層の研究交流の発展をめざすことが双方から表明された。

（文責：吉田 正純）